

# 児童・生徒とともに学び成長するプロジェクト

「児童・生徒とともに学び成長するプロジェクト」は2021年度につくられた新しいプロジェクトです。活動内容は、児童・生徒が抱える様々な問題・課題と、それに対する向き合い方を講義やグループ活動を通して学び、SNSを通しての相談というかたちで実践していくことです。

## \* TEAM DATA \*

メンバー数：4名  
 活動場所：伊勢市  
 担当教員：尾崎 剛志（現代日本社会学部）  
 土谷 長子（教育学部）  
 中野 一茂（現代日本社会学部）  
 活動年度：R03

## 月別活動

（7月）顔合わせ

（10月）遊び心の大切さについて学ぶ

（11月）引きこもりについて学ぶ

（12月）精神保健福祉士について学ぶ

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

今年度はコロナウイルスの影響もあり、外部での活動ができなかったため、活動を行う上で必要である知識を身に付けることを中心に行った。

活動内容は、初日の顔合わせをはじめ、社会福祉の視点から見た「遊び心の重要性」、引きこもりについて、精神保健福祉士に関する知識を学んだ。それぞれ、様々な学部で先生方に講義を行ってもらい、その講義を通して身に付けた。

まず遊び心の重要性については、悩みを持っている子どもの相談にのるうえで必要なことは、信頼であり、「遊び」を通して相手を知り、自分を知ってもらう。つまり、相談される側には、「遊び心」が大切であるということ学んだ。

次に引きこもりについては、学校における3段階の心理教育的援助サービスから、具体的に、引きこもりの背景には障害がある場合が多く、学校ではチームによる指導・援助と学校外の関連機関との連携が重要であることを学んだ。

精神保健福祉士については、心の問題を持っている人の相談をのるうえで、信頼関係が大切であり、同時にコミュニケーション技術が重要であることを学んだ。

これらのことから、相談をのるうえで信頼関係は必要であり、学校では他の人との協力が重要であること、また社会資源の把握も大切であることを学び、知識として身に付けた。

今後の課題は、身に付けた知識を活かして、実践できる場を設けること。また、実際に悩みをもつ子ども達と向き合っていくことである。

## 活動を通して学んだこと

活動を通して、悩みがある子ども達と向き合うためには、信頼が必要であり、専門知識とコミュニケーション技術を身に付ける必要があることを学んだ。今年度はコロナウイルスの影響により、実際に子ども達と関わることは出来なかったが、先生方のおかげで様々な知識を身に付けることができたため、今後の活動に活かしていきたいと思っている。

本年度はなかなか動き出すことができず、また感染症の拡大により当初のプログラムを実行することが難しかった。その中で、学部・学科を超えてご協力いただいた先生方のおかげもあり、児童の発達や心理学的視点からの相談支援、精神保健の観点からの対象者・環境理解などの講義と演習を行うことができた。次年度はこのプログラムを踏まえて、少し児童・生徒と関わる機会を持ちつつ、さらに学内での積み重ねをしていきたい。

## 担当教員より

現代日本社会学部 尾崎 剛志

新しいプロジェクトではありますが、教育現場における子ども達の問題や課題は多いため、頼りどころのない子ども達の居場所になれるように、専門知識を身に付けながら、子ども達に寄り添い、問題を解決する手助けをしましょう

## 成果物 / 制作物